

—鹿児島市—

谷山地区連続立体交差事業について

1. はじめに

鹿児島市の副都心として位置づけられている谷山地区では、地区内を南北に走るJR指宿枕崎線により市街地が分断されており、地域の一体的なまちづくりが困難な状況にあったことから、平成5年度より鉄道高架化の検討をスタートさせ、15年度の施行者拡大を受けて、17年度に中核市としては全国初となる連続立体交差事業の補助採択を受けた。その後、都市計画決定、事業認可を経て、20年度より現場着手、28年3月に高架切替を完了したところであり、現在、高架化工事に引き続き交差道路、高架下等の整備を進めているところである。

2. 事業概要

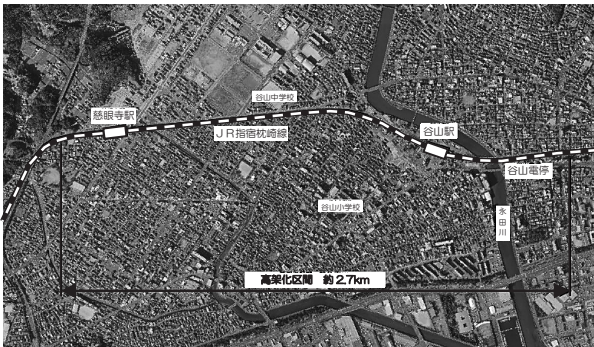
事業延長：(工事延長) 約3.1km
(高架化延長) 約2.7km

総事業費：総額概算195億円

施行期間：平成19～29年度

除却された踏切：15箇所

高架化された駅：谷山駅、慈眼寺駅



事業区間

3. 関連事業（高架下等整備）

鉄道の高架化に伴って新たに生じる高架下の利用については、周辺住民等のアンケート調査や周辺活動団体への意見聴取結果を踏まえ、駐輪場等の公共利用を優先しながらJR九州と協議を行い、27年度に高架下利用計画を策定した。また、高架橋に並行して生じる鉄道残地については、鹿児島市が取得し自転車道等として整備することとしている。

鉄道の高架化に加え、駐輪場、自転車道、遊歩道

等の整備を進めることにより、徒歩、自転車による交通結節点（谷山電停、谷山駅、慈眼寺駅）へのアクセス性を高め、自動車から公共交通への利用転換を図ることとしている。



高架下駐輪場（谷山電停）

4. 主な事業効果

(1) 自動車・歩行者交通量の増加

踏切の除却に伴い、踏切設置箇所の交通量が増加した（自動車：約23%増、歩行者：約34%増）。

(2) 騒音・振動の低減

ロングレールを採用し、レール継目を少なくすることで沿線の騒音・振動を低減した。

(3) 景観性の向上

周辺地域との調和に配慮した駅舎デザインとすることで景観性の向上を図った。



谷山駅ホームから桜島を望む

5. おわりに

平成27年度に高架切替という事業の大きな節目を迎え、地域住民やこれまで事業に携わった方々から喜びのお言葉をいただいている。今後も引き続き、高架下等の整備を着実に進めることでさらなる事業効果の発現に努めてまいります。

(鹿児島市 建設局 都市計画部 谷山都市整備課 源川 祐介)